—事例で見る—

幼児教育・保育施設の環境について

No.5

日本基督教団茨木教会附属　めぐみ幼稚園（大阪府）

000-000_幼児施設_めぐみ幼稚園.indd 48 2018/06/11 17:27

幼児の生活は、遊びそのものである。遊びを通して生きていく知恵と力を育む

日本基督教団茨木教会附属 めぐみ幼稚園（大阪府）

ちびっこ計画・大塚謙太郎一級建築士事務所　大塚謙太郎／一級建築士・保育士

四季を肌で感じられる新しい園舎、園庭は、子ども達がのびのび遊ぶために充実した遊環境が整備された。自由保育の中で、子ども達が自分で考え選び取る力と違いを認めあう心を育む保育を進め、子育ての主役である保護者とのコミュニケーションも大切にしている幼稚園

正面全景。中央の板壁に掲げられた「思い出の十字架」は、先々代の園舎にあったものを磨き直したもの

はじめに

日本基督教団茨木教会附属めぐみ幼稚園は、大阪府茨木市の私立幼稚園では最も歴史ある園である。1946年（昭和21年）に、敗戦後の荒廃した社会の中で、幼い子どもたちの心にキリストの愛を届け、明日への希望を与えたいという願いから創設された。その保育思想は、自由と自主性を重んじ、個々の違いを認めて互いを思いやる心を育てることを大切にする。また、子育ての主役は保護者であるという考えのもと、コミュニケーションを重要視し、その子育てをサポートしようというものである。創立70周年を目前にした2015年、３代目の園舎の老朽化が進む中、社会では保育所の急増や、認定こども園の普及などで乳幼児をとりまく環境が激変の最中にあって、幼稚園としての舵取りを迫られていた。紅葉が色付き始めた頃、ちびっこ計画へ届けられた指名コンペの要綱には、幼稚園のまま建てかえる、と記されていた。

夢を摘み取れば

当初の設計コンペ時に御提案した案の床面積は、実は倍近くあった。圧倒的な予算超過からスタートした設計は、先生方の夢をひとつずつ摘み取っていく作業に他ならなかった。予算の中に本当に納まるのかという不安の中の辛い作業だったが、無駄を削ぎ落とすごとに引き締まり、かえって本当に必要なものがはっきり見える明快なプランとなった。広いデッキと丸太柱、小さなか

000-000_幼児施設_めぐみ幼稚園.indd 49　2018/06/11 17:27

杉の皮剥丸太の柱に支えられるひろびろでっき。およそ２間の奥行きをもたせた。保育室への開口部は間口いっぱいに全開できる

雨の吹き込みに配慮した深い軒（※※※）

いのりのおへや見上げ（※※※）

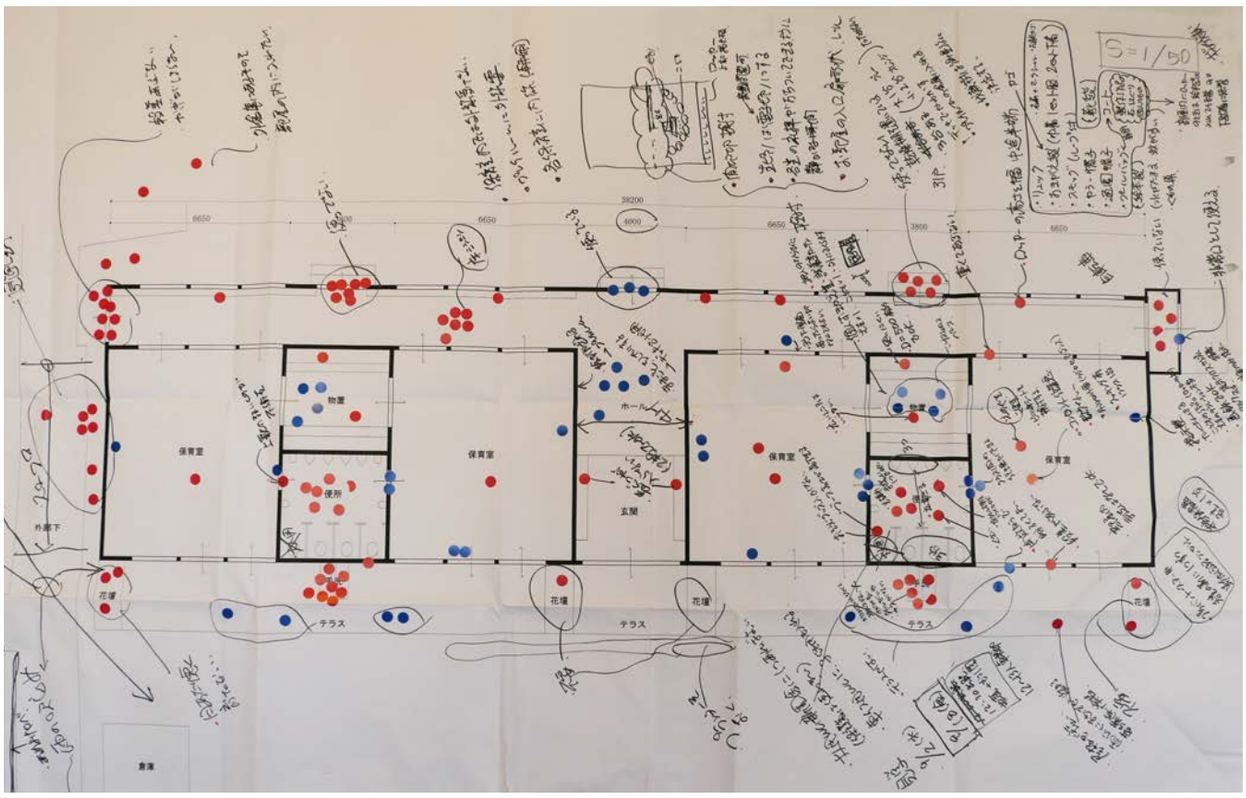
くれが、そして天上からの光が降り注ぐ「いのりのおへや」。元気な時、沈んだ時、皆といたい時、ひとりになりたい時、感情を制御することを覚えていく子どもたちに、時々の気持ちによって居場所を選択できる様々な性格の空間を設えた。

30本の丸太　30通りの姿

赤いもの、白いもの、あばたのあるもの、節のあるもの、つるつるのもの、ぼこぼこのもの。様々な表情を見せる30本の丸太群が、この園舎の大屋根を支えている。均質化の時代を生きる子どもたちに、ＯＮＬＹ　ＯＮＥになれと歌い聞かせるのなら、違いこそが本物の証だということを、私たち大人は彼らに伝えなければいけない。京都北山から伐り出された30通りの姿をもつ丸太群は、違うことの美しさを子どもたちに黙したまま語りかける。目で見、肌で感じ、ここに暮らす子どもたちが違いを認められる大人に育っていく、その一助になればたいへんうれしく思う。

『公共建築物等における木材利用の促進に関する法律』の施行より８年、民間の幼稚園や保育所の木質化も、徐々にではあるが進みつつあるようだ。法制化が遅すぎたという感は否めないが、たいへん好ましいことだと思う。

000-000_幼児施設_めぐみ幼稚園.indd 50 2018/06/11 17:27



教諭の皆様に御参加頂いた、旧園舎の良いところ・悪いところワークショップの記録

遊びの本質を考えさせられる(※)

しかし、ご承知の通り、幼稚園や保育所をはじめとする乳幼児のための建築では、２階以上に保育室等を設けようとすれば、防火上の制約が課せられ、丸太を柱として使うことができなくなる。保育所はもちろんのこと、特に幼稚園では大きな運動場が必要で、市街地での限られた敷地面積では、平屋建てで計画することが難しく、その意味において、丸太柱が織り成す保育空間は贅沢な造りだといえる。

30本の丸太のうち、最も太くて長いものが、西端にある「いのりのおへや」の８本だ。直径およそ40cm、高さは５ｍを超える。身長１ｍの子どもたちから見れば、「長い」というより「聳える」に近いのではないかと思えるそれを、てっぺんまで登りきってしまう子がいるらしい。それも一人や二人ではないとのこと、先日お訪ねした時も二人が二本に分かれてチャレンジ中だった。背割りに手を掛けて、両足で丸太を挟みこんで器用に登っていく。想定外である。きっと天井に達した時の達成感は素晴らしく大きなものに違いないし、眼下に大人たちを見下ろす気分はさぞ爽快だろうと思ったのだが、よくよく考えてみると、柱に登る子どもは、そのようなことで登っているのではなく、実は猿が木に登るが如く、動物的な本能が作用しているだけなのかもしれず、子どもの行動をなんでも意味付けしてしまおうとする、退化した大人の貧困な発想に我ながら呆れた。もしそうだとしたら、登ることを制止することは、動物的本能を抑圧するということになる。とにかく、めぐみの保育は、この想像を超えた子どもたちの行動をしっかりと受け止め、それを受容する。その懐の深さが、めぐみ幼稚園の大きな魅力のひとつだ

000-000_幼児施設_めぐみ幼稚園.indd 51 2018/06/11 17:27

気がねなくよごせる仕上げの保育室。これからの展開がたのしみだ。再利用の天井カセットエアコンは、かわいらしいアクセントに

と言える。彼らが大人になって、その柱と再会した時、その丸太の変わらぬ存在感と重ね合わせて、自身の存在を再確認することができるのではないかと、思ったりしている。人生の拠り所として存在し続けることもまた、園舎に与えられた大きな役割のひとつだろう。

「本物」を使う

私たちの設計スタイルは、園の一日の生活の様子を拝見する生活調査と、先生方からお聞きするご要望、そして教諭や保育士の皆さまとのワークショップの成果などを材料にして、正解へとにじり寄っていくというものなので、あまり冒険的な設計にはならない。私たちは、保育の質というものは、ソフトとハードの総合点で決まるものだと考えている。ソフトである保育のやり方に、ハードとしての建築が寄り添っていなければ、質の高い保育にならないのは当然のことで、それはそのまま子どもたちの不利益に直結する。そんな中、少し頑固に提案させていただくことがひとつだけある。子どもたちのために、「本物」の材料を使おうということだ。

私たちが、「本物」でないと考えるのは、木目調ポリ合板とか、フローリング調ビニルシート等の、いわゆる「似せもの」のことだ。残念なことは、「本物」の材料の物性が、ほとんどそれに劣る上、価格も高いという点である。

子どもの建築では、木は本物の代表格であると同時に敬遠される材料の代表格でもある。裸足保育をする園では、床に木を使うと足の裏に削げが刺さる。板張の節で怪我をする。丸太の背割りに手を突っ込んで抜けなくなる。木はメンテナンスが必要だし、掃除も大変だ。家具を引き摺れば木の床は傷だらけになるし、物を当てれば木の壁はへこむ。敬遠される理由を挙げれば限りがない。「本物」には、必ずリスクが付きまとう。なぜ、それでも「本物」にこだわるかというと、大人として、そして子の親として、子どもたちが「本物」を知る前に、似せものを見せたくないと考えるからだ。そしてもうひとつ、「本物」につきまとうリスクの裏には、子どもたちの成長の機会が隠れているからだ。めぐみ幼稚園では、丸太柱の背割りでの怪我や、板張りを汚したり傷めるなどの失敗を、子どもたちの成長に資する自然物の教えとして、積極的に捉えていくことが確認された。

その一方で、保育室はよごしてなんぼという側面もある。床や壁に木材を多用すると、誰しもお部屋を美しく保ちたいという気持ちがあるから、せっかくきれいにできあがったお部屋を汚してはいけないと、自然に子どもたちの行動を制約するような保育になり、子どもたちが窮屈な

000-000_幼児施設_めぐみ幼稚園.indd 52 2018/06/11 17:27

雨の朝の身支度の様子。軒の出が効果を発揮する。床材にはマクセラムデッキを使用。（※※※※）

旧園舎タオル掛け（※※※※）

旧園舎お迎え（※※※※）

旧園舎くつはき（※※※※）

生活を強いられるケースも多く、それでは本末転倒である。水や絵の具などを多用する製作遊びを、汚れを気にせず、思う存分楽しむことができるよう、保育室の床はビニルシート、壁はビニルクロスで仕上げ、清掃を容易に行えるようにした。それは、めぐみ幼稚園に制服が無い理由と同じだ。材料ひとつで保育が変わってしまうのである。保育の考え方に応じた適切な材料選定は、とても重要だ。

保育の外縁を支える

旧園舎は、北側にロッカーが並ぶ廊下を設け、南側に大きな掃き出し窓のある明るい保育室を配置する明快なプランで、地窓を設けて子どもの生活領域に風を導く工夫も施され、子どもたちの良質な生活環境を確保しようとする意図にあふれる設計であった。しかしながら、私たちが生活調査を行う中で、室配置と生活動線がうまく整合していないことに気が付いた。

上の３枚の写真は、建て替え前の旧園舎を視察させていただいた時のものだ。タオル掛けにタオルを掛ける等の朝の生活準備、手足を洗う、段に腰かけて靴を履く、段に集まって先生のお話を聞く、送迎の保護者が集まるなど、保育の外縁を構成する様々な行為が、園舎前のスペースで行われていた。残念なことに、使用頻度が高く、生活の交差点ともいえるその重要な場所には、屋根がなく、短い軒にコンクリートの土間があるだけという状況だった。私が、「雨の日のお迎えはどないしてはりますか。」と問うと、「保護者さんは傘を差して待っておられます。」と、至極単純な会話になってしまった。長い時の中で、それは不都合なことではなく、当たり前のことになっていた様子である。

生活調査の結果、園児が保育室間を自由に行き来することが多い保育スタイルであること、玄関があるにはあるのだが、手狭なために、登園動線を運動場のある南側からのリビングアクセスとしていて、北側廊下

000-000_幼児施設_めぐみ幼稚園.indd 53 2018/06/11 17:28

に設置されているロッカーに至るためには保育室を縦断する必要があること、前述のとおり本来廊下で行う事を想定していたであろう、タオル掛けやコート掛けなどの生活準備が、南側の屋根なし土間で行われていることなどがわかった。

私たちは、建物の間取りを、本来の生活の動きに従わせるため、南側に深い軒の出とともに、「ひろびろデッキ」として多用途に使える幅広の開放廊下を設けて保育室を北側に配置する計画とし、保育の外縁をサポートできる園舎を目指そうと考えた。

ちいさなきもちを受けとめる

「ひろびろでっき」は、保育室と同じく、地面から床を約50cm高く設定しており、運動場とは3段の踏み段でつながっている。正面の外観からは、軒の低さを感じさせないが、ひとたび屋根下に入れば、茅葺民家の軒下を思わせる囲まれた感じのする空間で、最も低いところで床面高さから190cm弱に設定されている。旧園舎の間取りに対し、南側に廊下を配置しなおすことで生まれた「ひろびろデッキ」だが、これによって旧園舎に見られた保育室への豊かな採光が難しくなるため、その直上に天窓と高窓を配置し、複数の径路で保育室に光を導いた。そのため、保育室が比較的高い勾配天井となり、開放的な場所となったので、「ひろびろデッキ」には、その逆の性格を持たせるため、天井をできうる限り低くし、内外をつなぐ連続性を保ちつつも、包容感のある場所となるよう意図した。旧園舎前で行われていた様々な生活行為が、天候などに左右されることなく、ゆったりと行えるようになったほか、今まで保育室の中だけに留められていた遊びも、季節の風を感じながら、ここで展開することができるようになった。

いのりのおへやに作られた「えほんのあなぐら」は、天井高さが120cmで、床を15cm掘り下げた、およそ3畳ほどのコーナーだ。床にコルクタイルを敷き詰めた、子どもサイズの小部屋である。三方の壁につくり付けられた本棚にさまざまなえほんがならぶ。旧園舎では、たくさんの蔵書を持ちながら、子どもたちの身近に置くことができなかったが、ここにくれば、いつでも、どんなときでも、えほんの世界に飛び込む事ができる。きっと、記憶の中で生き続ける、思い出の一冊に出会えるだろう。

それから、生活調査時に、保育室内でのお遊戯の輪に入らない園児が数名いるのが気になっていたので、押し入れ下におよそ1畳分のスペースとして「かくれがこーなー」や、「おきがえこーなー」を地窓とセットで

えほんのあなぐらは、エアコンのダクトスペースの下を有効利用したこどものための小さな居場所

000-000_幼児施設_めぐみ幼稚園.indd 54 2018/06/11 17:28

設け、複数人での遊びが発生しにくい小面積にすることによって、集団と適度な距離感を保ちながらも、ひとりでいられる居場所を保障しようと考えた。

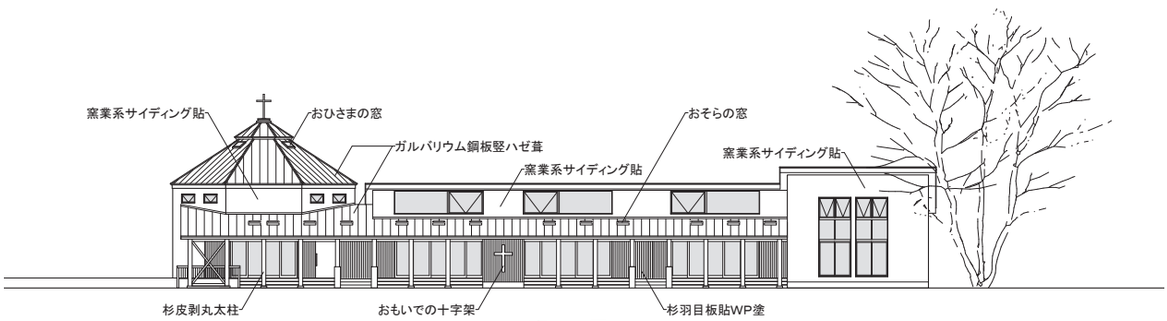
このように、いくつかの違った性格の空間を設定し、子どもたちが自分の気持ちにあった居場所を、自分の意思で選択できるようにした園舎は、プラン的には単純な片廊下型でありながら、断面計画を中心にしたいくつかの調整、廊下幅を広く取って用途性を持たせた上で、間口いっぱいに開放できる木製建具で保育室との連続性を確保したことによって、保育と園児の行動の幅が広がり、画一的でない生活を導き出した。

そのほか、細部計画においては、扉の指詰め防止処理、出隅の丸面取りなどをはじめとする怪我の防止対策や、網戸の破れ対策など教諭の手間を軽減する対策をしっかりととった。過剰なのではないかと考える向きもあるが、子どもの行動に対して

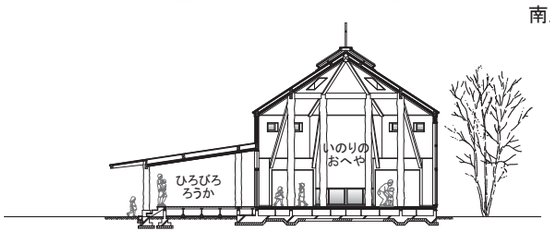
足場実演。大人の本気を見せる(※)

丸太柱の選定(※※)

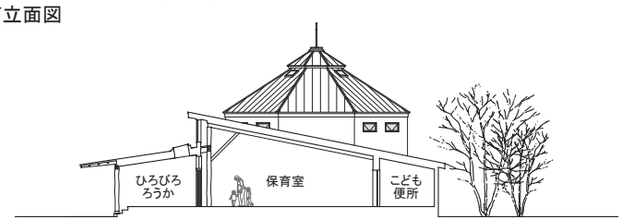
建方(※※※)



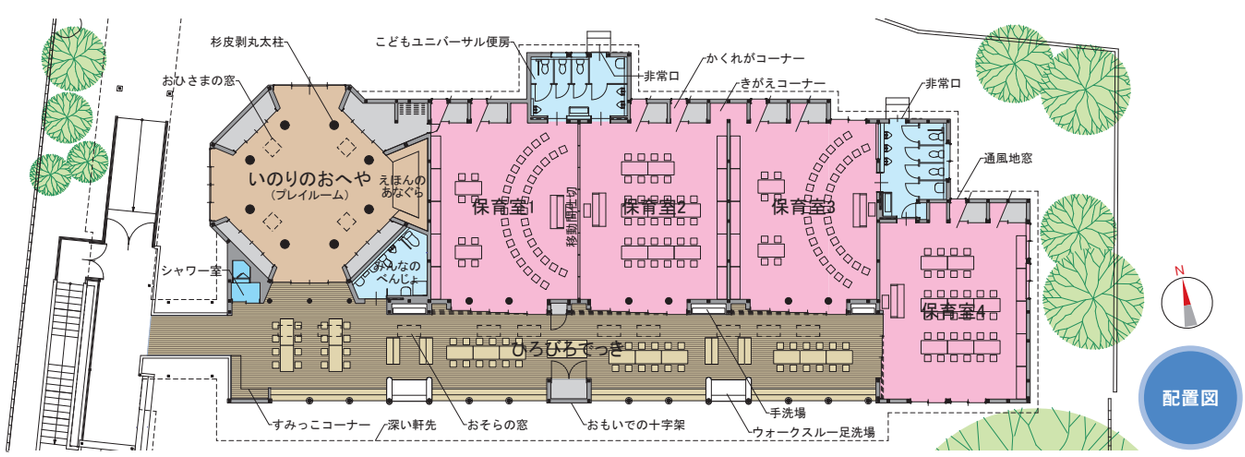
南立面図



いのりのおへや断面図



保育室断面図



000-000_幼児施設_めぐみ幼稚園.indd 55 2018/06/11 17:28

禁止や制約を与えすぎて、保育が後ろ向きで窮屈なものになる事のほうが、子どもにとっての不利益になるだろうと考えた。

時流に流されない

外へ目を向ければ、待機児童数を減らすという大人の正義が振りかざされ、認定こども園や保育所が濫造されている。定員弾力化の名のもとに、園児の詰め込みが公然と行われ、突然死や虐待が後を絶たない。そのような過酷な状況であっても、生まれた子どもは預けるものという考え方が肯定されるこの時代は、子どもたちにとって生きやすい世の中とはいえないであろう。そのような流れに迎合せず、幼稚園のまま子どもたちを見つめ続けていらっしゃる、変わることないめぐみの保育が、この新しい舞台で末永く続いていくことを期待している。

（※※※）

施設概要

正式名称：日本基督教団 茨木教会附属
　　めぐみ幼稚園
所 在 地：大阪府茨木市春日３-12- 8
用途地域：第２種中高層住居専用地域
建ぺい率：42.03%（許容60%）
容 積 率：62.46%（許容200%）
敷地面積：3,688.15㎡
建築面積：1,550.26㎡
延床面積：2,331.66㎡(内当該園舎483.85㎡)
構造規模：木造地上1階
設計期間：平成27年3月～平成28年3月
工事期間：平成28年4月～平成28年12月
設計・監理：ちびっこ計画・大塚謙太郎一級建築士
　　事務所
施　　工：株式会社北梅組
　　：(宮大工）揚野建巧
　　：(空調）株式会社辻中
　　：(電気）株式会社大原電気工業
　　：(衛生給排水）株式会社ナガハラ
　　：(外構）前田道路株式会社

外部仕上げ〈園舎〉

屋　　根：ガルバリウム鋼板　竪ハゼ葺
外　　壁：窯業系化粧サイディング横張、一部杉羽目板張
開 口 部：木製建具（一部アルミサッシ）

内部仕上げ〈代表的な部屋〉
〈保育室〉
天　　井：岩綿吸音板
壁　　：ビニルクロス
床　　：ビニル床シート
〈いのりのおへや〉
天　　井：ビニルクロス
壁　　：ビニルクロス
床　　：杉板
〈ひろびろデッキ〉
天　　井：スラグ石膏板
壁　　：杉羽目板
床　　：マクセラムデッキ

主な使用木材

使用部位	材料	使用量
園舎.丸太柱	京都産杉丸太加工	4.6㎥
園舎.梁	京都産杉加工	4.8㎥
園舎.隅木.方杖	京都産杉加工	3.0㎥
園舎.土台.大引	国産桧加工	10.1㎥
園舎.屋根破風	国産杉加工	0.7㎥
園舎.外壁羽目板	島根産杉加工	2.1㎥
園舎.床フローリング	島根産杉加工	1.1㎥

空調設備
冷暖房方式：空冷ヒートポンプエアコン（熱源：電気）

電気設備
受変電設備：高圧受電（敷地内教会から分岐）
照明器具：LED

※印撮影／めぐみ幼稚園
※※印撮影／北梅組
※※※印撮影／フィール・コミュニケーションズ株式会社西村康男
※※※※印撮影／大塚謙太郎一級建築士事務所
その他撮影／近代建築社（清水向山）

幼稚園概要 ［平成30年1月現在］

園　　長：田邊 由紀夫
ＵＲＬ：http://megumi.ibarakichurch.com/megumi/
電　　話：072-622-2739
園 児 数：160名
学 級 数：6
交　　通：JR茨木駅西口から（徒歩約10分）

000-000_幼児施設_めぐみ幼稚園.indd 56　2018/06/11 17:28